

# 65歳 鍼灸師誕生

## 県内最高齢 「代替医療広げたい」

【沖縄】厚生労働省が行う「はり師・きゅう師（鍼灸＝しんきゅう＝師）」の国家試験に、沖縄市仲宗根町に住む遠藤京子さん(65)が合格した。鍼灸師学科を設ける沖縄統合医療学院（浦添市）によれば、県内最高齢での合格という。

### 遠藤 京子さん（沖縄市）

遠藤さんは、学んだ東洋医学などを生かして小児鍼と呼ばれる子ども向けの療法と自然食品を組み合わせた「代替医療を広げたい」と希望を語る。

遠藤さんは、2011年3月の東日本大震災に伴う原発事故をきっかけに、県内移住を考えるようになった。当時は東京都新宿区の鍼灸学校に入学生続を進めていたため、試験合格後の移住を検討していたが、1年半の通学の後、13年4月に県内へ移り住み、沖縄統合医療学院に転校した。都内の通学1年に加え、2年の通学で受験資格を得て、ことし7月の試験に一発合格した。解剖学や生理学、法律、東洋医学など幅広い分野の学習には苦勞したようだが、「好きなエッセーにも去年は一切行かず、ずっと気に掛かっていた辺野古も、試験後に初めて訪ね



65歳で鍼灸師の国家試験に合格した遠藤京子さん＝8日、琉球新報中部支社

学んだ知識を生かして遠藤さんは、沖縄市南桃原に治療院と、都内で開いていた自然食品の料理教室を組み合わせた施設を7月にもオープンさせるという。

遠藤さんは、薬の利用を抑える上でも「人間に備わっている自然治癒力がある。お母さんたちに知ってもらいたい。伝える機会をつくっていききたい」と話している。

る考えた。小児鍼は針を使うのではなく、皮膚を刺激して血行を良くして体調を整える施術で、夜泣きや風邪、アトピー性皮膚炎などに効果が期待できるという。



子どもから大人まで400人が日本代表ラグビー選手らの手ほどきを受けたラグビーフェス＝3月22日、沖縄市の県総合運動公園ラグビー場

## 絵本通し「自分信じて」

「沖縄」病院で展示するため描いた絵画作品が観覧者からの要望に応じて書籍として出版された。ヒーリングアーティストの上間陽恵さん(50)「沖縄市」は、著書「ぼくは木」(えんじえるがらねつと発行、1500円)に「自分以外の何かなる努力より、自分を活かす」とのメッセージを込め、あるがままの自分を認め、信じるこの大切さを一本の木を通して伝える。上間さんは名古屋市の

生活を経て、1997年に県内に移り住んだ。描き始めた絵画は2009年に「天使のささぎ」と題して出版され、今回の「ぼくは木」は5作目となる。現在は展示会や、県外への講演会などに取り組む。出版動機について上間さんは「沖縄に移住して感動



絵本「ぼくは木」を出版した上間陽恵さん＝沖縄市桃原

がたくさんお心で接しておを続けたい」くは木」は、市内の小館にも寄贈し、上間さんが持てない社覚える」と話して「自分素晴らし、落ちてもらまを込める。同書籍は4ある絵と言葉されている。えんじえるがらねつと080934、